

令和3年度墨田区観光振興会議（第5回） 【要点録】

日 時	令和3年10月12日（火） 午後4時00分～午後5時30分		
場 所	墨田区役所 8階 82会議室		
出席者	常任委員	戸崎 肇 森山 育子 鹿島田 和宏	桜美林大学航空・マネジメント学群教授 一般社団法人墨田区観光協会理事長 墨田区産業観光部長
	招請委員	久米 信行 佐原 滋元	墨田区観光協会理事 / 東京商工会議所墨田支部副会長 / 久米繊維工業株式会社相談役 墨田区観光協会理事 / 隅田川七福会理事 / 向島百花園「茶亭さはら」亭主
	事務局	楠 幸輔 塩澤 満	墨田区観光課長 墨田区経営支援課長

は座長

配布資料

次第

出席者一覧

検討資料 第5回観光振興会議

参考資料 (仮称) 墨田区産業観光マスタープラン構成案

議事要旨

1 開会

(事務局から説明)

会議の進行が事務局から戸崎座長へ移る。

2 資料説明

検討資料「第5回観光振興会議」及び産業観光マスタープランについて、事務局から説明。

3 議事(要旨)

議題「ビジョンを実現するための具体的な取組案」

(久米委員)

○インバウンドについては、国によって好みが違う。どの世代・どの文化圏にアプローチをするのか、マトリクスを作るなど、国別にきめ細やかに対応する必要がある。たとえば欧米は北斎や職人が好きだったり、アジア系は桜が好きだったり。文化圏と世代を掛け合わせて、すみだに住む外国人・留学生・リピーターを組織化して、好みを分析してまちづくりに活かしていくと良い。

○在日外国人にツアーを作ってもらおうというのも良いと思う。いずれガイドになってもらうとか。日本人が拙い英語で案内するよりも、その国の言葉で案内してもらう方が伝わる。あるいは、VIP(商工会議所や音楽関係者)や広報相手のツアーを依頼するというのも良い。現在、IUと観光協会でバイリンガルツアーと動画を用意するという話が出ている。

- 今のすみだが求めているのは団体ツアーで訪れるような大衆観光客ではなく、リピーター。相撲や桜の度に来てくれたり、祭の担ぎ手として毎年来てくれたりする人。定期的に訪れる人が、働きたい、住みたい、にステップアップしていくような、交流して根づく仕組みが必要。
- 持続可能な観光振興における地域の活性化において大事なものは、「人材」だと思っている。修学旅行を受け入れる職人たちの話がうまくなってきたように、この10年で地元の人は大分シビックプライドを高めてきた。シビックプライドを持って、自分を磨いて、仲間と頑張る人がいてはじめて地域の活性化が生まれると思う。参加型の地域活性化が重要である。そして、すみだ愛を持つ地元キーパーソン以上に、産業観光部の人々が愛情を持ち、得意ジャンルの知識や経験を持ち、ジョブローテーションしたときにも観光DNAがあると、他の政策にもリンクしていくと思う。すみだ愛に溢れた人が役所に溢れるのが、産業観光部としてのSDGsなのではないか。人が育つのがSDGsだ。
- 官学連携の部分においては、新しくすみだに住み始めた人を歓迎し、地域愛や回遊性を向上させるツアーや地域イベントへの招待などのルーティンを創ると同時に、ラジオ体操を「うるさい」と言って受け入れられないような地域に溶け込めない人に対して「すみだルール」を考えて広めてほしい。江戸しぐさのような、すみだならではの地域マナーを広めるのも観光の仕事なのではないか。また、資料には「官学連携」とあるが、産業はもちろん、金融機関等との連携もふまえて「産学官金連携」と言っても良いと思う。

(佐原委員)

- すみだの良いところは、マイナスからの伸びしろだ。すみだには恥ずかしい過去もたくさんある。それがどうして上向いてきたのか、見える化することに価値がある。
- 今までのまちづくりはスクラップ・アンド・ビルドだった。しかし、建築学上、同じ場所に3回は建て直せないという話がある。今の高層ビルは100年もつかどうかと言われている。200年もつまちづくりは、修復型または木造であり、それを京島辺りで実験しよう、という取組がある。
- 官学連携について、区内にはIUや千葉大があるが、それ以外にも「すみだに興味ある学生みんな集まれ」ということを年1回でもやってみたらどうか。すみだは研究課題として面白いことがたくさんある。「全国すみだを語る会」を作してほしい。
- 最も大事なことは、コンテンツをデータベースとして整理することだ。すみだは、現存する歴史資源は少ない。その時々のできごとや記録をどうやってストックして整理するかは非常に大事なことである。観光は、学者がやっても面白くない。30年前のことは文化財にならない。30年前の話を面白く活かせるのは観光課だから、ぜひ活かしてほしい。データがあれば、ツールが変わってもいつでも情報を提供できる、という体制を整えることが大事である。
- 昔の地名を復活させてほしい。「なんでこんな地名なの?」という疑問から、その地域の成り立ちがわかったりする。古地図のデータベースもあったら良いと思う。
- 日本ユースホステル協会が両国に来た。民泊の原点はユースホステル。本来の民泊は、各地の暮らしを体験するような、家庭に入っていくものだった。こういったスタイルの民泊をブラッシュアップして講習会などをして、泊まる側・受け入れる側の相対的なレベルアップを図っていけると良い。

(久米委員)

- 佐原委員のマイナスからの伸びしろの話に共感。自分が知人をすみだに案内するときには、震災慰霊堂に必ず行く。海拔0メートルの看板を見せる。災害が多かったからこそ、ボランティアで消防団があったりする。海外の人にとって、ボランティアで消防なんて考えられない話。

○一方で、良かったけれど無くなってしまった、というものもたくさんある。路地裏で子どもたちが遊んで、商店街で買い物をして、銭湯に行く。人の家に上がり込んで一緒にテレビを見る、ご飯を食べる。そんな日常が今では見られなくなってしまった。

○別府オンパクの取組を見習ってほしい。たとえば、産業観光部で1人1ツアー考えたり、参加者のデータベースを作って需要に応じたツアーを提案したり。地元や近隣の人に来るようになると良い。

錦糸町は今、子育て世代に人気のまちになっている。そうした人たちに、すみだファンになってもらえるような取組を観光ですることが、住んで、暮らしてくれることにつながっていく。

(佐原委員)

○行政は、上向きにした取組を気づいていなかったり、積極的に語ってこなかった節がある。各部署に、「自分がやった事業で自慢できるものは何？」と聞いてみてほしい。誇れるように話してほしい。たとえば、江東橋保育園は23区内初の保育園だし、興望館は地域福祉の先駆けである。伸ばしてきた実績をブラッシュアップしてほしい。

すみだ七福神めぐりについて、コロナの影響でツアー客は減ってしまったが、地域の人参加が非常に増えた。地域の人にすみだを理解してもらえる機会だと考えれば、今は大きなチャンスであると思う。

(鹿島田委員)

○伸びしろの話で言うと、例えば北斎美術館のふるさと納税がある。23区初の取組で、納税額は23区内で1位。これは語りたことだ。あとは、墨田区は雨水の取組もすごい。墨田区で国際会議をやったということを知らない人も多い。トリフォニーホールだって、5000人の第九だってある。行政は、良い実績を忘れてしまう節がある。

(森山委員)

○観光は、光と陰。良いところばかり見せるのではなく、例えば関東大震災や東京大空襲で焼け野原になったことや皮革産業へのイメージなど、陰からどういう風に今に至っているかを考える必要がある。昨今のコロナ対応と一緒に、なぜすみだでうまくいったか。防災面で脆弱だから木造住宅に住めるか、という人もいれば、人と触れ合いたい人には良いまちだったりする。すみだの人たちがどう努力してきたかを見せるのも観光の部分。語り部と言われる人たちを残していくことも重要だ。

○自分たちとは違う目線を持った人の意見を聞くことは大事だと思う。すみだはどちらかというとシニアのまち。若い人の目線を取り入れる取組はもっともっとやっていきたい。

(戸崎委員)

○学生は発表の場を求めているから、学生の力を活用するのは良いと思う。内部だけで考えても新しい発想は生まれにくいから、外部の意見を取り入れることは大事なことだ。

○おみこしの担ぎ手として外国人や外の人を受け入れる場合は、その場限りの参加者ではなく、ある種の参加資格を設けないと地域の理解は得られないと思う。

(鹿島田委員)

○今日の議論を聞いていて、大事なのは「誰から聞くか、誰に対して話すか」ということだと思った。地域の人、委員の皆さんみたいに話せるようになると良い。地域にとって、観光をやった良かった、思ってもらえる

ような発信をしていかないといけない。

会議の進行が戸崎座長から事務局へ戻る。

4 その他

なし

5 閉会